



一般財団法人 芹沢光治良記念文化財団 ニュース（2）

代表理事 岡玲子

「光陰矢の如し」と去った1年でした。

これは、新型コロナウイルスの環境のせいでしょうか？
私の年齢でしょうか？とにかく芹沢光治良記念文化財団も2年目になりました。
3月に厳しい環境でもありましたが、財団第一回目の集いであります、勝呂奏先生の『サムライの末裔』出版記念講演会をさせていただきました。
それ以降マグノリアにお迎え致すのを控えております。しかし、この機会を使って、光治良先生が遺していきました、こまかな資料等を整理しております。
大変厄介な仕事ですが、面白い仕事でもあります。そろそろごく初めの整理が終わり、意味あって光治良先生が遺された、資料、品々を分類する作業にはいるところです。
一方、10月にホームページを開設させていただきました。少しずつですが、芹沢文学の将来に向ける1年目でございました。

『事務局より報告』

『財団ホームページ開設の紹介』



【公開URL <http://serizawa-kojiro.com>】

令和2年10月1日にホームページを開設することが出来ました。

芹沢光治良記念館様の秘蔵のお写真の協力もあり、たくさん写真を使用した ホームページを制作会社（ダブルループ）様に作成していただきました。

・「財団紹介」

作家“芹沢光治良”が原稿用紙にコツコツ文字をうずめ、そして読者も読み続けている象徴の財団です。皆様とご一緒に作家芹沢光治良の遺志と文学作品を永く後世に読み 継げていくための財団です。

・「芹沢文学ガイドとライブラリー」

入手困難な作品や公開されていない生原稿や各種音声データを閲覧できます。

・「文学サロン」

芹沢作品に関する感想や、他の作家の感想など本サロンが文学愛好者同士の素敵なふれあいの場になることを願います。

※訪問者はまだまだ少ないのですが、海外の方もご覧になっています。

（米国・ドイツ・フランス・カナダ・中国・ロシア・イギリス・オランダなど）



※財団のホームページに掲載された放送原稿とエッセイを拝読しました。小説と異なり、芹沢先生の思想やメッセージが直接に表現されていて興味深く感じました。
私は芹沢作品を初めて読んだのは晩年の「神のシリーズ」からでしたので、それ以前の膨大な作品群について情報が得られる財団ホームページはとてもありがたいです。
今後も入手の難しい未発表原稿等の公開を期待致します。（横浜 隈元琢様）

『会員の声』

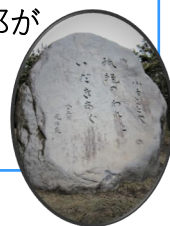


私も八十路に入りました。このとき噛み締めた言葉があります。
“姿は老いても心は若く美しく 八十翁 光治良”
芹沢先生が80歳を迎えたときの言葉です。
“老い”は、姿になって現れます。そこで若々しさを保つため頭を使い体を動かします。
次のもう一つの“美しく”とあります。ここがこの言葉の持つ重みです。
見掛けだけでなくにじみ出る美しさをも併せもちなさいと、静かに語りかけています。難しいですが心に刻みました。 (名古屋 安井正二様)

ソルボンヌ大学に留学している娘をパリに尋ねた時、ポンピドーセンターの図書館に芹沢先生の本を見つけました。3冊ありました中の1冊、「マダム.アイダ」を、覚えているわずかのフランス語を頼りに、1人静寂の中で先生の魂を感じようと一生懸命読んでいた事を思い出します。財団法人が出来て、皆様と心のつながりを得られる幸せを嬉しく思いますと共に、これからの活動を楽しみにしています。(東京 渡辺光苑様)

“富士山”が見えると芹沢光治良著「人間の運命」の森次郎を思います。つらい時、富士山に励まされ、慰められて成長します。学校で先生から「アイヌ語で駿河を天国と言うのだ」と教えられます。しかし人々の生活は貧しく、心痛むのです。
沼津から真正面に見える富士山は冠状の雪、綿帽子の頃から全体が真白になります。富士山は不死に通じ信仰の山でもあります。
駿河に過ぎたる“富士山”と原の“臨済宗中興の祖 白隠さん”に“芹沢光治良”を加えましょう。
(沼津 和田萬理江様)

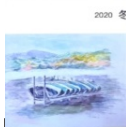
自由に出かけたり人と会ったりが制限され、閉塞感が強いコロナ禍が続いています。そのような状況で、芹沢財団のホームページが開設され、“人間の運命”の主人公森次郎がみた沼津の風景や、作家芹沢光治良先生のポートレートをみて、次はどの作品を手にとろうかと迷う瞬間が、緊張感の続く日常のなかにひとときの開放感を与えてくれています。(東京 清水美穂様)



芹沢光治良 一言スケッチ

- 季刊誌「奏 2020 冬」 (2020/12/10 発行) に
「芹沢光治良「サムライの末裔」ノート」が掲載されています。
- 高見順の評伝「われは荒磯(ありそ)の生(うま)れなり～最後の文士・高見順」の次回の第五弾<下巻ノー>の追悼記編に芹沢光治良の惜別の言葉が紹介されます。
- 三人社「サンライズ」復刻版(刊行 2020年7月 発行部数：限定70部)に
1947年4月15日発行の「サンライズ」第1巻第4・5号に掲載された作品「ひめごと」が掲載されています。

奏



- 芹沢光治良先生の資料整理中です。
 - ・放送生原稿
 - ・読者との手紙
 - ・作品推敲原稿
 - ・未完生原稿
 - ・親子交換手紙(文子・玲子)
 - ・写真 日記 色紙 スクラップブック 等

次回発行は6月を予定しています。

発行： 一般財団法人 芹沢光治良記念文化財団
〒164-0003 東京都中野区東中野5-8-3
代表理事 岡玲子 TEL: 03-3361-2913 メール: roka52@nifty.com
事務局 池田三省 TEL: 080-5088-1660 メール: serizawa52@nifty.com
ホームページ URL: <http://serizawa-kojiro.com>